



うおぬま通信

第13回

保存版

[発行]新潟県 2025年3月 第13回「魚沼医療再編」から10年目～成果と、これからの展望～



魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院

魚沼医療再編から 10年目を迎え、 成果とこれからの展望。



「うおぬま通信」についてのお問い合わせ 新潟県福祉保健部地域医療政策課

新潟市中央区新光町4番地1 直通：025-280-5981 (平日8:30～17:15)



『魚沼医療再編』から 10年の成果

平成27年6月の魚沼基幹病院の開院から本格スタートした「魚沼医療再編」から令和6年度で10年目を迎えました。今回、魚沼医療圏(十日町市・魚沼市・南魚沼市・湯沢町・津南町)の地域医療を支える病院長の皆さんに、この10年の成果や課題、今後の展望についてインタビューを行いました。先生方の生の声をお届けします!

地域完結型医療への挑戦と「うおぬま・米ねっと」が繋ぐ地域医療!

鈴木 私は魚沼医療再編が始まった10年前、新潟大学病院に勤めており、魚沼基幹病院の医師の確保など再編には間接的に関わっていました。当時まだ医療再編というのは全国的に先駆的なことで不安もありました。後に国が地域医療構想を打ち出し、結果として魚沼医療再編は国の動きを先取りしたものとなりました。そういう意味ではこの医療再編を成功させたことはすごいことで、再編に携わった(故)荒川正昭先生や地元の医師会の皆さんなどのご尽力や先見の明には敬意を払いたいです。

布施 魚沼医療再編の最も大事な成果は、まだ途上ではありますが、病院

完結型医療から地域完結型医療への転換という理念を実現させたことだと考えます。

以前は、各地域の中核病院がそれぞれ全ての医療を担う「病院完結型医療」を推進することが我々の常識だったかなと思います。俺たちの地域は俺たちが守るという感じでしたね。

しかし、それでは持続可能性が乏しいのではないかと疑念が生まれました。小さな自治体ごとに病院完結型医療を目指していたら、みんな共倒れしてしまう。高度専門医療はかかる頻度が少ないから広域で整備し、それ以外の生活に身近な医療は高頻度でかかるから生活圏ごとに整備していくべきだと。

この長い議論を経て、「地域全体でひとつの病院」という、魚沼医療再編の基本理念であり、「地域完結型医療」

の合言葉が作られてきました。

吉嶺 私が評価するのは医療・介護連携ネットワークである「うおぬま・米ねっと」を構築したことです。魚沼医療圏は中魚沼郡と北・南魚沼郡で成り立っていますが、その間にある魚沼丘陵が意外に険しいと感じることがあります。信濃川沿いと魚野川沿いの歴史的な人の流れとか、両地域の微妙なことばの違いなどもあり、当初は一緒になって関わりにくかったのではないかと推察します。そんな中、魚沼圏内で患者の医療・介護情報共有のしくみができたことはとても意義深いことです。今や「米ねっと」は魚沼医療圏のシンボルです。



魚沼基幹病院長
鈴木 榮一



魚沼市立小出病院長
布施 克也



十日町病院長
吉嶺 文俊

『魚沼医療圏』の 課題

地域包括ケアシステムへの新たな視点! 高度専門医療の集約と地域配分!

吉嶺 今までは高度専門医療や三次救急を担う魚沼基幹病院を中心とした医療再編の議論が主流でしたが、今後は地域包括ケアシステムを支える医療機関が注目されてくると思われます。増加する高齢者救急、在宅療養支援システムの拡充、そしてこれから始まる「かかりつけ医機能報告制度」にも対応していく必要があります。

鈴木 魚沼基幹病院と周辺の医療機関との役割分担と連携は、紹介・逆紹介件数の向上など成果は出始めていますが、まだ道半ばな部分もあるため、今後さらに取り組んでいく必要があります。

また、医療人材の育成として、当院は令和5年度から看護師の特定行為研修を始めており、受講した方が地域の看護師のリーダーになってくれると嬉しいですね。今、国では、新たな地域医療構想として、在宅医療や介護も含めた連携を議論していますが、魚沼圏域は医療資源が少ないため、訪問看護に頑張ってもらう必要があります。

布施 魚沼基幹病院は高度専門医療を担うマグネットホスピタルとして、患者も医療人材ももっと集約して、集めた技術を地域へ適切に配分していくという一番最初の病院理念をさらに追求していくべきだと思います。魚沼基幹病院は外来患者の単価がまだ低いため、圏域のリーダーとして地域へ強いメッセージを出し、高度

医療を必要とする患者の集約をもっと進めてもらいたいです。

吉嶺 今思えば「米ねっと」は時代を先取りしていましたが、これからの課題は、現在国が推進しているマイナポータルを用いた全国医療情報プラットフォームとの共存だと思います。最近ある訪問看護師さんから「もう米ねっとなしでは業務が回らない」というお話を伺いました。これからも医療・介護関係者のみならず、行政や地域住民にもわかりやすくその意義をお伝えしながら、さらなる加入率のアップを図っていく必要があると思います。



この10年の試行と結果

救急車の圏域外搬送率が低減

| H26年度 | R5年度 |
|-------|------|
| 約10% | 4.7% |

高度専門医療の提供体制が強化

| | H28年度 | R5年度 |
|------|--------|--------|
| 手術件数 | 398件 | 524件 |
| 化学療法 | 1,506件 | 2,576件 |

※魚沼基幹病院のがん治療

魚沼基幹病院の医療機器整備



圏域の医療連携・役割分担の変化

| | R1年度 | R6年度(見込み) |
|--------|--------|-----------|
| 紹介患者数 | 4,506人 | 6,360人 |
| 逆紹介患者数 | 5,225人 | 8,232人 |

※魚沼基幹病院への紹介、魚沼基幹病院からの逆紹介



「うおぬま・米ねっと」とは

魚沼医療圏の病院、診療所、薬局、介護事業所、自治体、救急隊などで患者さんの医療と介護の情報を共有するしくみです。

無料 **米ねっとカード**

★加入者は48,374人! (R7.1現在)
★近くの診療所や病院で加入できます!
救急搬送時間の短縮に繋がっています!
災害時も情報があれば安心です!

◎加入のお問い合わせはこちら

NPO法人魚沼地域医療連携ネットワーク協議会 TEL 025-788-0485

『魚沼医療圏』の 今後の展望



「米ねっと」が描く未来—— 安心して暮らせる 魚沼の地域医療モデル

鈴木 やはり、「米ねっと」には期待しています。国の進める2040年を見据えた新たな地域医療構想では在宅医療や医療介護連携が柱となっています。「米ねっと」の活用はまさにこれに合致するんです。このことを行政や住民の方に理解してもらい、「米ねっと」を上手に使っていけば魚沼医療圏の新たな地域医療構想は本当にうまくいくと思います。魚沼医療圏で暮らす人たちが医療から介護まで生涯安心して過ごせるためのツールであることをもつ

とアピールしていきたいです。
布施 魚沼医療圏が他の地域に先んじて、長い時間をかけ再編の議論をしてきたアドバンテージを生かすためのキーワードは、住民の理解だと思います。
だんだん変わってきていますが、まだ大病院志向でとりあえず魚沼基幹病院にかかろうとする住民の方は多くいます。まずは身近な「かかりつけ医」を受診し、専門的な治療や検査、救命救急センターでの緊急の治療が必要な場合に魚沼基幹病院を受診する。この医療機関ごとの役割分担についてもっと理解を深める必要があります。こうした魚沼医療再編で目指していた

理念への理解を地域全体で高めていくことが、みんなが安心して暮らせる地域に繋がっていくのだと思います。
吉嶺 魚沼医療圏のような豪雪過疎地の医療施策には日本を再生する重要なヒントが隠れているのではないのでしょうか。例えばへき地医療を支えるための公共交通網はどうあるべきかとか、医療DXを推進するために若い世代のアイデアを取り込むにはどうしたらよいかなど。そのために、医療界以外のさまざまな分野の人たちや住民との対話を重ねながら、みんなと一緒に最適解を求めていくという姿勢が大切だと考えます。

魚沼基幹病院 ★インフォメーション★

退任ごあいさつ



魚沼基幹病院
病院長
鈴木 榮一
(すずき えいいち)

本年3月末で魚沼基幹病院長を退任することとなりました。令和2年4月1日に着任して、あっという間の5年間でした。着任する前は、魚沼の医療再編を完成させることが私の使命と考えていましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延で、その対応に相当の時間と労力を要しました。フェーズに合わせた院内対応方針や対応マニュアル

の策定と改定、対策本部会議の頻回の開催、一時的な感染症病棟の設置・増床、そしてなんといっても当院職員の多大なご協力により、なんとか乗り切ることができました。
地域医療構想を先取りした形の魚沼医療再編には、医療機関の機能分化と連携が不可欠であり、魚沼基幹病院は高度医療・救急医療を担う病院として、その機能を発揮することが重要であるとさまざまな場で発信してきました。COVID-19に対応しながら、新規一般病棟の開設、地域包括病棟から一般病棟への転換を行い、紹介受診重点医療機関の指定を受け、地域連携推進室

を設置し、地域連携を進めています。“地域全体でひとつの病院”を実践するために、役割分担と連携の重要性は医療関係者にはある程度浸透してきていると思いますが、住民の方の理解が不可欠であり、完成形には道半ばと思います。新たな地域医療構想では、魚沼基幹病院は医療機関として急性期拠点機能を確立し、うおぬまの医療ネットワークがさらに発展していくことを期待しています。
開院10周年を迎え、次の10年のスタートにあたり、お世話になった皆さんにあらためて御礼申し上げます。ありがとうございました。